

特別養護老人ホーム 三愛園



しおかせだより



令和7年7月号

毎日、日が照り、暑い日が続いておりますが皆様いかがお過ごしでしょうか。水分補給や塩分補給をこまめに摂取されておりますでしょうか。

7月といえば七夕ですね。七夕は彦星と織姫の物語が有名でございますが、この物語で私が着目したのが「天の川」です。今、私達は当たり前のように天の川を見ておりますが、日本では、いつの時代から天の川が存在を認識していたのだろうと気になり、調べたところ、なんと奈良時代に七夕と天の川の事を詠った短歌がございました。中納言家持という方が「かささぎの渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞふけにける」と詠っておりました。訳すると「七夕の日、牽牛(彦星)と織姫を逢わせるために、かささぎが翼を連ねて渡したという橋、天の川にちらばる霜のようにさえざえとした星の群れの白さを見てみると、夜もふけたのだなあと感じてしまうよ。」だそうです。この句は百人一首にもある句でもございました。時代は変われど今、私たちが見ている天の川は今も昔も変わらずに夜空に留まっているんだなと思うとなにか感慨深いものがありますね。皆様も夜空の星々を観察してみてはいかがでしょうか。

介護職員 原田

6月のふれあいデー昔の道具で写真撮影♪

父の日の記念撮影

